

寄稿 36歳 人生の昼休み 涌井貴暁さん

小さな頃から作文が大嫌いだった。題と名前を書いただけで、ひたすら原稿用紙を不安な表情で見つめ、肩を丸めて小さくなっている涌井少年が思い浮かぶ。しかし頼まれたので、書かせていただきます。書く内容は何でもいいということなので、今自分が困っていることについて書きたい。



(レトロな筆者)

二件ほどある。まず一件。とにかく何をしても楽しくない。徹底的に楽しくない。この間もバイク(YAMAHA,SR400)でキャンプをしに行ったのだが、楽しいのは瞬間で、刹那主義的でなんか空しい。もっと若い頃は、何をしてもいつも楽しくて仕方がなかった。そしてもっと自信に満ち溢れ、怖いものなど何もない、できないことなど何もないというような感じだった。しかし今、自信は無く、なぜか毎日の一瞬一瞬が怖くて仕方がない。本当に困っている。二件目。正直死んでしまおうと決意した日からあまり変わらず、もういいかげん本当に終わりにしたい。終わりにしたいといってもはや自殺する勇気ももう無く、ベッドの上でキレイに気づいたら死んでいたというような感じがいい。私にとって人間という役割は重荷だ。もっと石ころとかでよかったと思う。なんだか書いていて悲しくなってくる。

最後にもう一つ。これは困ったことではないのですが、人生を24時間時計に表わすには、自分の年齢を3で割ると、それが人生の時間になるそうです。例えば私は、今年で36歳なので、 $36 \div 3 = 12$ 、ちょうどお昼の12時だ、おう、俺昼休み。

児童とのかかわり方 in 田浦コミュニティーセンター

6月2日(月)、教員生活を始めた横須賀市船越で、ボランティア団体“あすなる会”の研修会で話をさせていただいた。教員3年目に担任だった中西由美子さん(学童を担当している)の仲介でこの講演会が実現した。50人ほどが参加してくれました。会長西澤妙子さんは、2年目の僕を教師にしてくれた享子さんの母です。その長女の安西美佐子さんも同席下さり感激です。会場には当時の親御さんがたくさんいて、実に楽しかった。副会長は堀内さん、あのホリケン(ネプチューン)の父親です。さて講演は、テンションが勝手に上がって、暑苦しかった(笑)ようです。柄になく子どものイラストを描いて、講演。育てられた地域と人に大感謝です。(滝田)

連載 **すぐそこにあること**「花火大会にて～思考って?～」新井秀浩 33歳

逗子市の花火大会があった。電車や夜の外出が苦手な僕にとってそれは大袈裟だけど挑戦みたいなものでもあった。市のデータによれば昨年と同花火大会は12万人の人出だったらしい。10年位前に行った時よりずいぶん人が多いなと思ったけど、比較的体調も良かったし花火大会ってお金がかからないし行って損することはないのかなと思って行ってみた。

逗子市の人口が約6万人に対して12万人の人出。予想を上回るほどの人、人、人。案の定カップルばかり、もしくは女性同士の友達このパターンが比較的多かった。僕は恋人はおろか友人もないのももちろん一人。周囲の会話が耳に入ったり充実したように見えるカップル。花火は一応見た。ただ久しぶりのイベント参加なのか普段ネット上では多くの人と仲良くしてるせいか予想以上の孤独感に苛まれた。帰宅後母親にずいぶん愚痴を聞いてもらったけど。それでも孤独感、またはおおよそ20年間対人関係を絶ってきたからそのブランクを痛いほど感じた。 ※裏面へ続く

コラム風梅雨に入り豪雨、と思いきや晴天。研究所近くの極楽寺・成就院に人が押し寄せる。紫陽花が笑顔で迎えてくれる。TVドラマの影響も?… さて、柄にもなく自然と人間の間を考えた。「自然を守る」と言う現代社会の大きな課題だ。不登校の高校生と話を続け、実に哲学的な若者であることに気づいた。そこで池田晶子(あきこ 享年47才)氏の「14才の君へ」(哲学エッセー)を読み返し、高校生に渡した。「読むんですか?」 オット…「枕にして」とじゃれあった。池田氏は「人間も自然の一部。自分を大切に」と言う。「自分を愛すること、即ち自然を愛すること」と僕は痛感した。蒸し暑さを感じる6月、爽風が僕の心に吹いた。

(1面より続く)やっぱり家でPCの前で親しい人とネット上のSNSで交流したら構ってくれるし、一人じゃないっていう感覚、コミュニティの輪に入ってる安心感みたいなものがあるんだと深くそのことを思った。だから二度とそのようなイベントには行きたくない、なんだか数年ぶりに花火大会に行ったのに前向きな感情は全くなかった。

結局のところ恋人がいないから強烈的な嫉妬という感情と孤独感でその夜は悶々として過ごした。こんな時って思うのは他者に対しての攻撃的な事ばかり。こんなことは書くべきではないと思うけども僕の現状が変わらない以上、他者が転落して不幸になれば、とそのような思考回路になる。思考は一転、ある時は誰かを助けたい。ある時は誰かを救いたい。ある時は大切な人が困っていたら我を忘れ相手に尽くしたいという思いもある。このように矛盾した思考を抱えているのが人間なのかなって僕は思う。

6月15日子ども若者応援団会議 惜敗 Japanにもめげず、定例会

横浜(元高校教員 現大学院生)から、そして逗子(アンガージュマン支援者 発達障害支援心理士)から新たな参加者2人を得て14人、ピアニスト秀君と母も参加してくれました。当日ワールドカップ初戦日でした。

宮坂・永野さんは小網代の森の清掃ボランティア後に、安川県議は大阪からの視察明け、山本さんは東北震災再発見の旅を終えてお土産持参で、涌井さんはバイクツーリングに(※1面寄稿)、高島さんはご近所のお子さんと母に憂いを抱き、龍崎さんは“大人の文化祭(11月)”を紹介、団長小幡さんは超多忙な日々を楽しんで、それぞれの世界を充実させての参加でした。後半は9月イベント企画に話が進みました。講演会開催日は9月23日(火 祝日) スローガンは「2020年はみんな(地域)で安心して楽しむ子育てを！」として子育て団体との世代を越えた交流会を、開催場所は福祉会館7階音楽室(予定)。要請する参加団体も話し合った。Facebookで情報を公開しています、チェックしてください。なお、6月現在の会員数は60人、御礼申し上げます。次回ご参加を。



それぞれの風 あせらず、のんびり、Yを信用して Yの母よりの手紙

Yの入試の際には大変お世話になり、ありがとうございました。

高校に入学してから2か月がたち、やっと近況を報告しても大丈夫かな(笑)?と思い連絡させて頂きました。おかげさまで毎日楽しく学校へ通っております。親は学校にまた行けなくなったらと不安に思いながら、入試に行けた…、1週間行けた…、ゴールデンウィーク明けも行けた…、中間試験も金曜日に終わり、やっと少し大丈夫かも…と(略)。

新しい友達や学校の先生にも恵まれ、(中略)週に1回授業でカッター船を漕いで海に出たり、委員会活動に参加したり、新しい生活になじめるよう積極的に頑張っているようです。

高校の先生方はいろいろな子どもを見てこられているので、「君はおもしろいね～」など声をかけて下さって、Yも「学校の先生に久しぶりにほめられた！」と喜んでいました。入学したての頃「僕ってまじめなの? 小学校のころからずっと問題児っていわれてきたでしょ、でも友達からまじめだねって言われたんだ！」と照れくさそうに聞いてきました。ずっとずっと劣等感を持ったまま小中学校生活を送っていたのに、分かってあげられなかったと反省しました。最近はこのことだけはうるさく言わないで(怒)」「選択科目や学校のことは自分でできるから口を出さないで！」と、私に意思をはっきり伝えられるようになり、私から自立し始め成長したな～と思いながら、ちょっとさみしくもあります…。この先も、このまま順調にいかないことも多いかと思いますが、あせらず、のんびり、彼を信用してみようとおもっています。

(滝田:注)Yさんとはスクールカウンセラーで小4?から関わった。多動で授業中も落ち着かず仲間とケンカやいじめ等。高学年で少し落ち着き、知識豊富で私立中学進学。そして本格的に不登校、アンガージュマンで学習や居場所支援を受けた。3年生、復活したがマダラ登校…。秋も深まって私学進級断念、公立高校進学を決意。2回(計5回)ほど研究所へ、最後の面談は入試直前1月だった。個性豊かなYさんの可能性は大!

相談は10時～16時
でお願いします。訪問
もご相談を(土日も)応
援団会議は横須賀
市市民活動サポート
センター午後2時～4
時ご参加下さいね

7月の開設日程(駐車場あります。)

3日(木)	相談 予約済み	21日(月)	相談 祝日休業
7日(月)	相談	24日(木)	相談
10日(木)	相談	28日(月)	相談
14日(月)	相談	31日(木)	相談
20日(日)	応援団会議14時		